

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和3年11月19日（金）
14時31分～15時45分
全 員 協 議 会 室

- 【出席者】三浦委員長、村武副委員長、
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、
上野委員、川神委員
【事務局】近重係長、小寺書記
-

議題

- 1 はまだ議会だよりVol. 64について…………… 資料1
 - (1) ページレイアウト
 - (2) 掲載記事及び原稿提出締切
 - (3) その他

- 2 はまだ議会だよりminiについて…………… 資料2
 - (1) 第10号掲載内容及び原稿担当
 - (2) その他

- 3 申し送り事項の確認について…………… 資料3
 - (1) 申し送り事項確認
 - (2) その他

- 4 その他
 - (1) まちづくりセンター担当決め
 - (2) その他

【次回委員会開催予定日】令和3年12月22日（水） 13：30～ 全員協議会室

【議事の経過】

[14時 31分 開議]

三浦委員長

議会広報広聴委員会を始める。手元に本日納品のV o 1.63がある。今回ちょうど選挙を挟んでいたもので、事務局にはお手伝いをいただき感謝する。またご確認いただきたい。では議題に沿って進めていきたい。本日はその他を入れて4項目である。

1. はまだ議会だよりVol.64について

(1) ページレイアウト

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

今のレイアウト案について皆から意見を伺いたい。

川上委員

ページ10と11が市民対談だが、せっかくここに高校生と書いてある。ちょうどこの時期なら高校生の就職がほぼ内定した時期だと思うので、浜田地域またはこの周辺に就職される、内定されている高校生と対談するのもよいのではと考えるがいかがか。

三浦委員長

市民対談のページについて、川上委員からご提案があったがいかがか。

川神委員

私も議会広報広聴委員会に出るのは久しぶりなので内容の議論を全部つかんでないので申しわけないが、まず市民対談の取材対象者、こちらは例えば流れがあったのか。どういった方を対談の人間に選んでいるかというコンセプトがあってやっているのか。旬の方を選んでいるのか。考え方がどうだったのかが一つと。

高校生もよいが今回特に所信表明などでも、若者などに光を当てようという話なので、高校生もしくは大学生。せっかくの学園都市なので県大生、そういった範囲の若者にスポットを当てたらと思うがいかがか。その前に考え方を聞かせてほしい。

三浦委員長

これは議会だよりで、あくまで議会が発行するものであり、この市民対談も議会が関心のあるテーマから、その分野で活躍している方たちにフォーカスしながら、今地域にある課題などを、対談を通じて発信することを目的にしている。したがって考え方としては、先ほど川神委員がおっしゃったように、所信表明の中で若者というところを市長が触れられているということなので、実

際に若者の声としてはどうなのかを聴くということで、若者を今回市民対談のパートナーとして選ぶのは、非常に考え方として一致する。いかがだろうか。

川上委員

川上委員、先ほどおっしゃったような地域に就職された方というのは、選定について何か具体的な方法を考えておられるか。

各高校に、就職指導部があると思う。そこに、何がしたいから地域に残るのだという思いを持たれた方がきっとおられると思う。そういう方の思いを、私ども議員が聴いておくことも必要ではないかと考えて、そういう方法でもよいのではと考える。

三浦委員長

学校を通じてご紹介いただくということか。そのほか、意見があるか。非常に、タイミングとしてはよいのかと思うが。川上委員からは高校生、川神委員からは大学生も含めて若者ということで捉えてよいのではないかと意見があったが。

川神委員

先ほど県大生と言ったが、例えばリハビリテーションカレッジ島根みたいな。以前やったことあるのか。実は大変気になっていて、なかなか募集がうまくいかない。学校自体も少し元気がないということで、少しリハビリテーションカレッジ島根にも地域の方々の認識とか関心も集めていかなければ、この将来的な運営も大変だろう。その中から元気な方が出て市民対談をしていただければ、さらに市民がリハビリテーションカレッジ島根に対して改めての認識を持ってもらえるかと。そういった意味のくくりで県大生やリハビリテーションカレッジ島根の学生などといったジャンルもありかと思う。

三浦委員長

意見をいただいたが、皆はいかがか。

肥後委員

若者ではないかもしれないが、浜田市は結構転勤でこちらに赴任される方、家族や、当然若者、学生の方もおられると思うが、そういった人にも、次回の64号には限らないが光を当てて、お互いに触れ合いができたらと思う。

三浦委員長

そのほか、学生に限らず意見があれば何うがどうか。

村武副委員長

若者ということで先ほどリハビリテーションカレッジ島根の話もあったが、浜田看護学校の学生で、浜田医療センターにもう就職が決まっている方もよいかと感じた。

大谷委員

若者に視点を当てる方向でよいことだと思う。高校卒業後、市外県外へ出ていく子どもたちが多く中で、例えば大学卒業後に帰

ってきた若者がいたら、これまた一つよい声をいただけるのではないかと思う。どういう方がおられるかはわからないが、そういう方にスポットを当ててるのもよいかと思う。

川上委員

高校生と言ったが、大学生、リハビリテーションカレッジ島根の学生、または卒業後に地元就職される方という話があって、若者に視点を当てるといことなので、それについては担当を決めて、そこから案を出していただくという形ではいかがか。

三浦委員長

ご提案感謝する。複数でもよいかと思う。対談形式で。どなたかお一人というよりはリハビリテーションカレッジ島根の学生がいたり、看護学校の学生がいたり、あるいは場合によっては高校生がいたりということでもよいのかなと想着いて。先ほど川上委員からご提案があった、今回の取材担当を決めて、その中で正副委員長を交えて検討するというのでいかがかと思うが、どうだろうか。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

担当はどうするか、この流れで決めてよいか。

(「はい」という声あり)

ではこの流れで決めたいと思う。毎回、担当の方が質問項目を考えてインタビューしに出向いて、これまでは大体私が写真を撮りに行っていたのだが、カメラマンと一緒にいくという形態、そして原稿を整えていただき、ページにおさまるようにする、ということなのだが。どなたか対談、インタビュー行くという方がおられたら。もちろんこちらでもサポートはするので、ぜひ行ったことない方をお願いしたいがどうか。自発的に。

では肥後委員にお願いします。もう一人くらいどうか。これは地域の方々とお話するのに大変よい機会なので。

では大谷委員と肥後委員に今回お願いして、少し、先ほど大谷委員からもあったが、人選などご提案もいただいて進めていく形にしたいと思う。ではこれはまた協議させていただく。

では話を戻して、ほかのページについてレイアウト等意見はあるか。大きくは14ページが未定になっていて、1ページ使えるページがあるのだが、ここの活用方法について意見等があればありがたく思うがどうか。

小寺書記

市民対談のところで複数名出られてもよいのではということだ

ったので、今回は例えば市民対談を増量してみて3ページなどにして、3人分1人1ページみたいな形もできるのかなと思ったところだがいかがか。

三浦委員長

どうだろうか、ではその方向でいこうか。

(「はい」という声あり)

では市民対談のページを今回は1ページ増やす。ほかはよろしいか。大体通常どおりだが。

川上委員

ページ12に委員会活動レポートがあり、そこに産業建設委員会がもう指定してあるのだが、これは何かわけがあるのか。

三浦委員長

いえ、特段指定するものではなく、書記が昨今の委員会の活動ということで、例として書いたものである。決してこれに固執するものではない。

川上委員

わかった。産業建設委員会はスタートがこれだったので、まずこれから入るといって、このような形で産業建設委員会は現地確認のレポートを出すという形でやらせていただければと思う。

三浦委員長

はい。そうしたら総務文教委員会と福祉環境委員会もどうか。スタートしたところでそれぞれの委員会で少し掲載記事の内容を考えていただき、それぞれの委員会ごとにお願ひするでよろしいか。異論はないか。

(「異議なし」という声あり)

議会広報広聴委員会も書いてよいのか。はい。せっかく常任委員会なので書いてもよいかと。議会改革推進特別委員会はどうするか。

小寺書記

この後、miniもある。そこの兼ね合いもある。どちらかだと思っている。あと議会運営委員会なども今回載せてもよいかと思っている。

三浦委員長

ではminiとの兼ね合いを考えながら、基本的には各常任委員会に委員会の現況をレポートいただくということでお願ひしたい。

ほかにあるか。よろしいか。

小寺書記

9ページのまるよみについてなのだが、これは議会全体としてのトピックスを何か載せられればと思っているところだが、何かよいアイデアがあればいただきたい。

三浦委員長

いかがだろうか。ちょうど昨日、はまだ市民一日議会の取り組みについて奥出雲町議会が視察に来ていただいた。マニフェスト

大賞優秀躍進賞を受賞したということもあり、そのあたりの視察を受けたということニュースとして書いてもよいかと思うのだがどうだろうか。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのような形で、議会ニュースとして上げたい。ほかに小寺書記からないか。

小寺書記

16ページの読者アンケートの質問項目、2月1日発行のものでどのようなことを聞くか。市民対談で若者という意見も出ているので、その絡みでもよいかもしいれないが、ご意見をいただきたい。

三浦委員長

16ページ、最後のページのQ2だが、こちらで毎回設問を設けておける。その時々で、委員会からも聞きたいことなどを募ったりしているのだが、今回は常任委員会には確認せずこちらで進めていく感じでよいか。もし案があれば皆から意見をいただきたいかがか。これは、2番を飛ばして1番と3番だけというケースが今まであったらどうか。ないか。

大谷委員

浜田は仕事がないという声を聴くが、本当に仕事がないのかという思いがある。仕事がないというが、そうなのかどうか。産業にもかかわるのだが、そうした意識が聴けると参考になるかと思う。

三浦委員長

そのほかいかがか。今まで常任委員会から希望されて設けた質問にはどのような事例があったか。

小寺書記

ちょうどこの前のV o 1 . 62のときが総務文教委員会から、「まちづくりセンターとまちづくりコーディネーターへの期待感」、今回V o 1 . 63に載っているのが議員定数等議会改革推進特別委員会からあった、「議会に期待することはどんなことか」を改選に併せて聞いている。一応あったのはこの2点である。

三浦委員長

今大谷委員からもご提案があったが、常任委員会に確認する時間というのはないか。スケジュール的にどうか。

小寺書記

少し厳しいかと。今度11月30日の3常任委員会するときなどに投げて、できるかどうかというところ。

三浦委員長

大谷委員からのご提案の項目は非常に重要だと思うが、これまでの経緯を申し上げると、委員会の中で取り扱っている協議事項で、市民の方に意見を聴きたいという、委員会での取り扱いがある前提で聴いていた経緯があつて。今回こういう関心事で設問を

設けたときに、聴いた後にそれをどう取り扱うかが少しふわっとしたままで質問してもよいのかが少し気になる。とはいえ、せっかくの市民の方々の声を伺える機会なので、そうした、議員各位からの関心事をもちろん設問として設けるのも、問題はないと思う。その点はいかがか。今回特に意見がないようであれば、委員会のスケジュール等もあってなかなか各常任委員会に確認するのが難しいということなので、先ほど大谷委員からご提案のあった内容について、問いかけ方、文言はまた意見をいただくことにして、浜田における就職や雇用の状況について設問でよろしいか。

(「なし」という声あり)

ではそういう形で、これもまた大谷委員にご相談させていただきたいと思う。よろしく願います。

では64号のレイアウトは、先ほどのようなことで進めたい。

(2) 掲載記事及び原稿提出締切

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

スケジュールについては先ほどご説明があったとおりに進めていきたいと思うので、ご協力をよろしく願います。

担当者について割り振りを行いたい。トピックスが三つあるがどなたかご担当いただけないか。扱う記事については随時相談しながらという形で、実際に記事を書いていただける方、三つあるので。ではまるよみは川神委員にお願いして。トピックスのところは皆に割り振るということで、上野委員と村木委員にお願いしてよろしいか。あとは読者アンケートのところは村武副委員長にお願いしてよいか。

小寺書記

委員会活動レポートを3常任委員会とこの委員会からということなので、こちらのご担当も願います。

三浦委員長

ここは各常任委員会でご相談いただいて出させていただくということかどうか。それぞれの委員会から出ておられると思うので、委員会内でそれぞれ協議していただいて。決めようか。

(以下、協議)

では上からトピックスについては、沖田委員、村木委員、上野委員に願います。まるよみについては川神委員に願います。

市民対談については肥後委員、大谷委員。委員会活動レポートは小川委員、川上委員、私が担当する。読者アンケートについては村武副委員長にお願いします。

(3) その他

三浦委員長

小寺書記から何かあるか。

小寺書記

ない。

三浦委員長

皆から何かあるか。

(「なし」という声あり)

2. はまだ議会だよりminiについて

(1) 第10号掲載内容及び原稿担当

三浦委員長

10号の掲載内容及び現行の担当について、小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

まず議長日誌については期間中の議長の日程から検討を。1月1日なので新年の挨拶はここかなと思うが、私が書いてよろしいか。書かせていただく。

あとは議会改革の部分載せるか載せないかと、議員のつぶやきだが、提案事項があれば何う。

川上委員

広報はまだの最新版は、まだアップしていないか。今月20日から来月にかけて、プリズンサークルという映画がある。それ多分案内はされると思うが、見た感想などどうか。20日は和田まちづくりセンターである。どなたか見ていただき、書いていただくのも手だと思うが。浜田でもあるので。ごらんになっての意見も入れると非常によいかと思う。

三浦委員長

それはつぶやきか。よい提案だと思うが、見に行くことが確定している方はおられるか。上野委員にお願いします。もう一つ新年の挨拶とは別に議会活動の中で少しニュースを書くスペースがあるが。委員会活動は本紙で、特別委員会を載せるのはスペース的に少し難しいか。見開き2ページある。委員会の活動は一括で本紙に全部載せたほうがよいかと思うのだが。

川上委員

今日、周布橋の仮橋の入札結果が出た。これから着工するばかり。その内容を少し入れてもよいかという気がする。

三浦委員長 どうだろう。市民からも非常に関心の高いテーマなので、速報的にも適しているかと思うのだが、よろしいか。もしよければ肥後委員に執筆をしていただけると。

肥後委員 はい。

三浦委員長 よろしいか、ご協力に感謝する。では1月1日号は新年の挨拶、周布橋の入札結果を受けての今の状況、それから映画観賞会レポート、議長日誌ということで制作したい。これのスケジュールについては小寺書記からお願いできるか。

小寺書記 1月1日発行で事務的には12月28日に掲載できればよいかと思っている。よって原稿の締め切りとしては、その1週間前くらいのところを目安にさせていただければと思う。12月22日に委員会があるので、それまでのところでいただければ委員会の中で紙面の確認もできるかと思う。

三浦委員長 前日でもよいのか。では20日にしようか。12月20日を原稿締め切りとさせていただきたい。よろしく願います。

(2) その他

三浦委員長 m i n i についてそのほか皆から何かあるか。

小寺書記 議会改革推進特別委員会の動きを本紙のほうでということなので、こちらの担当も決めていただきたい。

三浦委員長 議会改革推進特別委員会に所属されている方はこの中でおられるか。小川委員、村武副委員長、どちらかお願いできないか。

小川委員 私が。

小寺書記 小川委員が委員会活動レポートで福祉環境委員会と議会改革推進特別委員会ということで。

三浦委員長 皆のご協力に感謝する。よろしく願います。ではm i n i のほうはよろしいか。

3. 申し送り事項の確認について

(1) 申し送り事項確認

三浦委員長 まず書記から何かあるか。

小寺書記 (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 では、申し送り事項含めてこれから2年間をめどに議会広報広聴委員会でどのような活動をしていくか、副委員長と協議しながら

ら作成した活動方針を皆にお示しし、意見をいただきながら活動していきたい。

まず2年間で振り返ってだが、通常のこととはまだ議会だよりの編集作業に加えて、新たに取り組んだことがある。これはその2前の委員会からも申し送りを受けて、それを引き継ぐ形で、はまだ市民一日議会の実現などもそうだが、そのようなことも含めて新規で取り組んだことが多かった。はまだ議会だよりのリニューアルもこのようにフルカラーになったり、中身もかなり見直して今に至る。miniの発刊にも至り、毎月はまだ議会だよりを現在は発行している。地域協議会との意見交換会の開催も、コロナ対策ということでの協議の始まりだったが、こうした意見交換会も行うことで地域から継続を望まれている状況にある。

はまだ市民一日議会だが、次のページめくると、さまざまな課題はこれから解決していかないとはいけないが、応募者数、応募者層、10代から80代の方に応募いただき、満足度も90%、中には市議選に立候補された方もいらっやって、YouTubeの再生回数も1744回と、議会が発信する番組の中では最も再生回数が多くなっている。はまだ議会だよりのほうだが、今議会だよりの読者アンケートというものを行っており、このアンケートを通じて寄せられた要望数は42件。新たな広聴機能として一定の役割を果たしているかと思っている。また先ほど申したように、議会だよりのminiの発刊を行うことで4回だった議会だよりの発行回数が12回になっている。

こうした現状を踏まえて、これからどのように活動していくかだが、ページをめくって、前委員会からの申し送りのあった事項を踏まえて、継続して取り組むとともに、若者、今日もいろいろと話が出ていたが若者を意識した活動を新たに取り入れながら、議会に対する理解促進を図っていくということを考えている。

基本的に議会広報広聴委員会の役割はここにも書いてある、広聴機能として市民の方々の声を聴いて政策に反映させるための情報収集をしっかり行うことと、収集した情報をどのように扱ったかを知らしていくための情報提供を行うということで、常任委員会と特別委員会も含めて各委員会との連携が必要不可欠にはなっていくが、こうした役割を引き続き果たしていきたい。

次、まず広聴機能の部分だが、これは2年前の活動方針でお示しした一つ目、収集情報を増やそうということだが、実際には地域協議会との意見交換会を開催した、はまだ市民一日議会を開催した、それらを踏まえて常任委員会へそれぞれの委員会での広聴機能をもっと活性化をといた申し入れなども行わせていただいた。これをやる中で見えてきた課題を整理するというので、一つ目は地域協議会との意見交換会を今後どのように進めていくかは整理しなければいけないと思っている。横の円マークと星印は、この課題解決に係る予算の規模を示していて、これはそこまで予算はかからないだろうと。

二つ目の課題ははまだ市民一日議会、これは各議員からも課題や意見をいただいているが、継続を基本的には踏まえた上で実施に当たる要綱やルールの整理をする必要があるだろう。

課題三つ目だが、それらの取り組みの整理と併せて、これまで行ってきた議会報告会や地域井戸端会も含めて、こうしたものの実施をどうしていくか検討をする必要があると思っている。

二つ目、議会における伺った声をどのように反映していくかという、反映度を向上させようということ、政策討論会を使った政策形成サイクルを定着化させようということ活動を活動方針にうたっていたのだが、なかなか政策討論会の常時実施までは至っておらず、常任委員会以外の枠組みの設置の可能性を検討したり、意見要望の取り扱いについてどのように吟味して返していくかという仕組みづくりを検討していく必要があるかと思っている。

今度は広報のほうだが、これも2年前に提供情報の増量ということで、とにかく情報発信もしっかりやっとうと、ミニ広報のウェブ配信ということで、これ実際にははまだ議会だよりminiの発刊に至ったのだが、毎月頑張っつくっくはいるが、やはり本紙ほど読者が獲得できてないところがあっ、せっくくつくっくしているminiの存在をもう少しアピールしていく必要があるかと思っている。予算は場合によっては広報費が少しかかるかもしれない。各議員のウェブサイトをクリックするという、これはもうやっくくしているので実現に至った。ウェブをリニューアルしようとして提案したのだが、予算、費用対効果の部分が前委員会の中ではしっくく共通認識を持つことができず、申し送りの中に含める形に

はなった。既存サイトでいろいろと情報の配置を見直せるところはやってきたのだが、情報量が結構多いので、実際には見にくい状況が改善されていない。またスマホ対応ができてなく、スマホでほとんど情報を取るような時代の中でスマホの最適化ができてないというのは、情報発信方法としては全く優しくない状況なので、これについてはできれば皆と共通認識を図りながら予算要求をしっかりとしたいと考えている。情報の平明化については議会だよりをリニューアルする中でいろいろと企画も、市民対談などを設けながらできるだけ読んでもらいやすい、読みやすい紙面構成を心がけてきた。こうした取り組みをやる中で実際にどうだったのかという効果検証をする必要があると思っている。また、この議会活動全体の活動自体をしっかりPRしていくためには、YouTubeで発信するとか議員がいろいろな活動状況を紹介するとか、新しい広報活動も検討する必要があるのではと思っている。

この広報広聴の2点のところは、引き続き申し送り事項に沿った形での課題整理ということで上げさせてもらったが、もう一つ皆と少し議論してみたいと思っているのが主権者教育の推進である。議会改革推進特別委員会の資料から一部抜粋しており、議会による主権者教育やシチズンシップ教育の推進ということで、これは議長も就任されるときにこの部分には触れておられたかと思うが、これから政治参画をしていくであろう幼児、小学生、中学生、高校生、そうしたときからしっかり政治の必要性といったものに目を向けてもらう、関心度を高めていく活動が重要ではないかと考えており、広報の中でも大事な役割ではないかと考えた。ただ手法もさまざまでも私もこの資料をつくるに当たり調べてはみたのだが、模擬選挙の実施、学校の課題としてこうしたものを提供する、学校会議というものをつくって学校の方針を皆で考えていくとか、市議会見学、もちろん来ていただいたときにどのようなコミュニケーションを取るかという見直しや、あとはわかりやすい政治解説冊子の作成、はまだ議会だよりという既存メディアをつかって解説するとか、先進事例はほかにもあって、こうしたところを皆とアイデアを持ち寄りながら、どのような方法がよいのかは検討してみたいとも思うし、議会改革推進特別委員会でも引き続き取り組んでいかれる項目かと思うので、委員会同士で少

し協議もしてみるとよいかと考えている。

最後にスローガンだが、前は2年間、市民の声を第一にということで広聴機能を。前議長も広聴機能が大事だとずっとおっしゃっていて、それにも賛同する形で広聴機能をしっかりやろうというスローガンを掲げていたのだが、聴くだけではなくしっかりそれを期待に応える形で戻していく、広報の部分もやはり必要なので、議会をより身近に感じてもらおうという言葉を用意して、双方向の関係構築をしていくことを意識しながら、議会広報広聴委員会を進めていけたらよいと思っている。

これはあくまで方針で、確定したものではない。こうした申し送り事項を基本的には踏まえながら、既存の活動をしっかり見直しながら、新しいことにも可能な限り取り組んでいきたいと思っている。皆からまた意見をいただきながら、よい委員会活動を進めていきたいと思うのでよろしく願います。意見があれば伺いする形で、そういう時間も今から取りたいと思うがいかがか。

川神委員

基本的によいと思う。私も前任のその立場のときに、今委員長が言われたように、広聴機能をしっかり高めようということの特に言った。ここにあるスローガンの最後の「市民の声を第一に」ということから始めよう。今回が「議会をより身近に」ということで。私も最終的には聴くことによって市民との距離を縮める、より議会を身近に感じていただくことを将来的な大きな目標として、広聴機能を強化しようとしたので、より身近にというのはその延長線上にあることで、そういうことを継承していただきありがたいと思う。

三浦委員長

ほかの皆からはあるか。

川上委員

先ほど川神委員も言われたように、私も市民の声を広聴することは非常に大切なので、これを前面に出して進んでいくのは非常によいと思う。

肥後委員

この資料を作成されたこと自体がすごいと思った。はまだ市民一日議会の再生回数も大方2千に近く、YouTubeの動画が再生されるというのもすごいことだと思うし、先ほどから言われるように、広報広聴、市民の声を聴く、そして聴いた声をどのように扱ったかを知らせていく、この2点はすごく大事なことで、また、今はオールドメディアという言い方をしては失礼なのだが

紙面で取り扱っている部分が非常に多いが、各個人のSNSやホームページ、ウェブでも発信し、また委員長が言われたようにスマホの最適化には私もすごく興味があるので、また勉強して一緒に頑張っていけたらと思っている。

小川委員

課題について可視化していただきすごく助かる。特に議会改革の中でも若い時期から市政に対しての関心を持っていただくための主権者教育についても、確かに議論してきたし、それを実際どこでやるかというところと広報広聴機能としてやるのが一番妥当なのかと感じている。この間いろいろな取り組みをしてきているが、今までのことから双方向の関係構築でいうと、次の段階に行っている感じがする。これを具体的にこれから2年間の一つの方針として皆で進めていけば、よりよい広報広聴活動ができるのではと期待している。あと実際の予算の関係については少し専門的な計算も必要なかもしれないが、こういう活動をするためには財政的な裏づけも確立しながら進めていくことが必要かと感じた。

上野委員

初めてこの委員会に入ったのだが、素晴らしい活動をしておられることがよくわかった。市民の声は聴くのだが、市民がどのくらい議会に関心を持っておられるかがしっくりわからない。声を聴いて答えることはできるが、実際市民がどうなっているか、ここに来て見てもらえばわかるが、なかなかそれができない。そういうことを繰り返しながらやっていけたらよい。

沖田委員

先ほど来ほかの委員が言われたとおり、特に広聴機能の充実というのは、この2年間でかなり充実したと、目に見えてわかるくらい浸透してきたと思う。その中で、主権者教育の推進、これは事前に、議会改革のときに言わせていただいた。これは本当に非常に大事だと思っている。確かに学校に出向くとか、言うのは簡単だがなかなかハードルも高いかもしれないが、まず取り組んでいくことが大事かと思っているので、前向きに取り組んでいきたいと思っている。

大谷委員

活動方針の中で「若者に視点を」ということで、大変よいことだと思う。若者に視点を当てるのであれば、若者が活用するツールを使っていかないと、幾ら発信しても受け手側にそれを見てももらえないので、スマホ対応などについては早急協議したほうがよいかと思う。あとは、若者ということでこうした活動をしっかり

村木委員

り聴いて、はまだ議会だよりでも今回こうしてやろうとしているので、より見える形に持っていったらよいと思う。賛成する。

このたびこの方針を拝見して、一番痛感したのは主権者教育。これについて、ご存じのとおり3月まで社会教育を担当しており、特に18歳選挙権になったときにどのように、当時公民館からどのような発信ができるかすごく悩んだ。それから高校の魅力化においても、やはりこういったこと。さらにはキャリア教育につながる部分を見ると、やはりこの主権者教育というのがなかなか難しいのだが、実際にかかわることができるのはこの部署なのかと思っている。たまたま昨日、三隅中学校で学習支援が始まって、リハビリテーションカレッジ島根の子どもたち3人をつなげたのだが、公民という教科を聞いて、あったなあと思った。ちょうど昨日の今日だったので主権者教育、ぜひかかわりたい。

三浦委員長

基本的に広聴機能をしっかり取り組みながら、もちろん広報もしっかりやっていくという大筋のところは皆に共感いただけたのかなと思っている。また数名の委員からは主権者教育の必要性についても重要だという意見もいただいたので、これに当委員会でもどう取り組むかは委員会内で一つのテーマとして、今後皆と協議させていただければと思う。負担が大きい部分もあるので、皆と一緒に広報広聴機能の充実に向けてしっかり取り組んでいきたいと思うので、どうぞご協力をよろしく願います。

では申し送り事項と活動方針についてはこれで置きたい。

4. その他

(1) まちづくりセンター担当決め

三浦委員長

読者アンケートの改修担当等について決めたい。

小寺書記

発信した資料をごらんいただきたい。

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

そのような形で決めていきたい。立候補制でどうかと思う。自分はここに行くというところを言っていただくと。できるだけ負担が少ないようにとは思っているのですが、そのような形でご協力いただければと思うが皆いかがか。

小寺書記

一応26あるところを10人、9人でということなので、一人2、3とイメージしていただければと思う。

(以下、委員間協議)

浜田：村武副委員長

石見：川神委員

長浜：大谷委員

国府：沖田委員

周布～大麻：肥後委員

雲城、波佐、小国、久佐：川上委員

今福：小川委員

旭：上野委員

弥栄：三浦委員長

三隅：村木委員

このように割り振らせていただく。ご協力感謝する。このように決定した。

次、行政視察の件、小寺書記から願います。

小寺書記

各常任委員会等でも話はあったかと思うが、行政視察するに当たり委員会で積み立てをするかどうか、皆にご判断いただきたい。先ほど主権者教育のところ、どこか先進事例を見に行くということはあると思うので、やるかどうか、金額をどうするか、いつから積み立てを始めるかをご確認したい。

三浦委員長

積み立てについては、させていただく方向でよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

金額は。

小寺書記

前は議会広報広聴委員会は月2千円にしていた。ほかの委員会とのバランスも含めて。ほかの常任委員会でもされていると思うので、金額的な負担も考えながら。

近重係長

大体常任委員会は5千円、特別委員会や議会運営委員会はしない。予算決算を除く4常任が積み立てをしている状態。

三浦委員長

いかがでしょうか、前回までは2千円ということだが、2千円にするか。

(「はい」という声あり)

では2千円ということで、いつから間に合うか。

小寺書記

12月からということでよろしいか。

三浦委員長

では直近で手続きが可能なきからで、よろしく願います。

(2) その他

三浦委員長

次回の委員会の日程確認だが、12月22日水曜日の13時半からをご提案したいが、皆のご予定はいかがか。よいか。

(「異議なし」という声あり)

では22日水曜日13時半から、場所は全員協議会室で。

予定していた議題は以上だが、書記から何かあるか。

小寺書記

ない。

三浦委員長

委員から何かあるか。

村武副委員長

小寺書記にお願いがあるのだが、先ほどまちづくりセンターの担当が決まったのだが、センターに行くタイミングをメールで委員の皆にお知らせいただくと大変うれしい。

小寺書記

引き続きお送りするので、よろしく願います。

三浦委員長

ほかによろしいか。

(「はい」という声あり)

以上で議会広報広聴委員会を終わる。

[15時 45分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀